

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社東海理化 大口技術開発棟新築工事	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目260番	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条区域	平均居住人員	760 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年9月 予定	評価の実施日	2026年2月27日
敷地面積	10,207 m ²	作成者	中村さゆり
建築面積	4,357 m ²	確認日	2026年3月6日
延床面積	12,973 m ²	確認者	浅野 浩明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	66%
③上記+②以外の	66%
④上記+	66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 4
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

音環境	4.4
温熱環境	3.6
光・視環境	3.7
空気環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

機能性	4.0
耐用性	3.6
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

生物環境	4.0
まちなみ	5.0
地域性	3.0

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

水資源	3.6
非再生材料の	4.0
汚染物質	4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

地球温暖化	4.3
地域環境	3.6
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.3

③敷地内の緑化

4.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	24.1 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.7 %

②資源の有効活用

3.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>
なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社東海理化 大口技術開発棟新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体									
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体										
Q 建築物の環境品質													3.9								
Q1 室内環境													3.8								
1 音環境													4.4								
1.1 室内騒音レベル													4.4								
騒音レベル ≤ 40dB													3.0	5.0	0.40	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音													4.2								
開口部遮音性能: T-2													0.4	4.2	0.40	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能													-	5.0	0.60	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能													-	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音													4.0								
二面に吸音材を使用													-	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境													3.6								
2.1 室温制御													3.5								
1 室温													0.5	3.5	0.50	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能													3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性													3.0	5.0	0.25	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御													5.0								
冬期湿度45~55%を満足する加湿機器の設置													3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式													3.0								
													3.0	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境													3.7								
3.1 昼光利用													2.2								
1 昼光率													0.3	2.2	0.30	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口													3.0	1.0	0.60	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備													-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイサイドライトによる昼光利用													3.0	4.0	0.40	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策													4.0								
1 昼光制御													0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-
ブラインド・バンディングメタルによる昼光制御													5.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-	-
3.3 照度													4.0								
設計照度: 750lx													3.0	4.0	0.15	-	-	-	-	-	-
1作業単位で照明制御でき、リモコンで調整													3.0	5.0	0.25	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御													5.0								
													3.0	5.0	0.25	-	-	-	-	-	-
4 空気環境													4.0								
4.1 発生源対策													4.0								
1 化学汚染物質													0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用													3.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-	-
4.2 換気													4.0								
1 換気量													0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-
換気量は30m ³ /h・人以上													3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能													3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
給排気口の位置を異なる方向かつ6m以上離して設置													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理													4.0								
1 CO ₂ の監視													0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御													3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
全館禁煙													3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能													3.8								
1 機能性													4.0								
1.1 機能性・使いやすさ													4.0								
1 広さ・収納性													0.4	4.0	0.40	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応													0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画													3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性													5.0								
1 広さ感・景観 (天井高)													0.3	5.0	0.30	-	-	-	-	-	-
天井高: 2.9m以上													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
リフレッシュスペース: 1%以上、自動販売機を設置													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
3 内装計画													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
建物コンセプトに基づく内装デザインがされている													3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理													4.5								
1 維持管理に配慮した設計													0.3	4.5	0.30	-	-	-	-	-	-
維持管理に配慮した設計を行っている													3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保													3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
清掃用のスペースと洗い場を確保しており、維持管理用の機能を確保している													3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性													3.6								
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.0								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能													3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数													4.1								
1 躯体材料の耐用年数													0.3	4.1	0.33	-	-	-	-	-	-
品確法等級2相当													-	4.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													-	5.0	0.23	-	-	-	-	-	-
耐用年数の長い外装仕上げ材を使用													-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-
耐用年数の長い内装仕上げ材を使用													-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
耐用年数の長い配管材を使用													-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔													-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性													4.4								
1 空調・換気設備													0.1	4.4	0.19	-	-	-	-	-	-
吊配管による地震時の影響低減などの対策がある													3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備													3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-
節水機器の採用、災害時用の水栓設置等がある													3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
非常用発電機の設置、電源設備の地下設置回避等													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
耐震クラス:Aクラス													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等													3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり		階高:3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-		
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.3未満0.1以上	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性			ケーブルラック、OAフロアを採用	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			バックアップ設備スペースの計画がある	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	4.1	
1	生物環境の保全と創出	独自③	既存樹の移植や豊富な緑の量を確保する計画としている	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0	
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	視点場からの良好な景観形成へ配慮した計画	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	4.0	
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.4	
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.73	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用		自然エネルギーの直接利用があり、有用性の検討を実施している	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0	
3	設備システムの高効率化		BEI=0.55	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.9	
1 水資源保護				0.4	3.6	0.15	-	-	-	3.6	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-		
自動水栓に加えて節水型便器を採用				-	-	-	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.3	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		井水を利用している	3.0	4.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	4.0	0.63	-	-	-	4.0	
2.1	材料使用量の削減		BCP材、ハイベースNEO工法、ウイングビーム工法等を採用	-	5.0	0.07	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材	独自	東リ(マチコV)、押出法ポリスチレンフォーム、吉野石膏(ソーラトロン)	3.0	5.0	0.21	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LG5工法、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.0	0.22	-	-	-	4.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を1種類使用している	3.0	4.0	0.32	-	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤		不活性ガス消火設備を採用	-	4.0	0.33	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		GWP値の低い断熱材の採用	-	5.0	0.33	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.6	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率66%	-	4.3	0.33	-	-	-	4.3	
2 地域環境への配慮				0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6	
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-	-		
燃焼機器の設置は無い				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	-	5.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-		
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社東海理化 大口技術開発棟新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:24.1%/建物緑化:0.7%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社東海理化 大口技術開発棟新築工事

計画上の配慮事項	
総合	愛知県大口町に新築される本研究施設は、既存棟との有機的な連携を図りながら、地域創生への貢献を目指して設計されています。「人と人」「会社と地域」を結ぶ繋がりをコンセプトとし、交流を促す空間構成と新たな価値創出を支える研究環境を融合させました。革新的で独自性の高い付加価値を提供するとともに、研究者・企業・地域が交わるフィジカルな繋がりを最大化する新しい技術開発の拠点となる施設です。
Q1 室内環境	開口部の遮音性を高め、屋内の音環境に配慮している。また、執務室の照明器具は、細かく制御が可能であり、省エネを図りながらも、執務者に配慮した照度設定が可能である。
Q2 サービス性能	執務室空間の開口部を大きく計画することで屋外の情報を取り入れやすくし、リフレッシュスペースを確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。また、防汚・防錆対策があり維持管理に配慮した設計としている。
Q3 室外環境(敷地内)	建物利用者を含むワークショップを実施し、ニーズに即した建築計画を実現している。また、街道から望むことのできる桜や植栽による修景、視点場を踏まえた外観検討など、良好な景観形成への配慮も行っている。
LR1 エネルギー	効率の高い設備機器の導入や照明のLED化により、熱負荷を最小限に抑えている。また、ハイサイドライトを設置することで、自然光を積極的に取り入れ、自然エネルギーを活用した採光を実現している。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。また、ノンフロン型断熱材の採用や有害物質を含まない内装材を選定することで、環境負荷低減にも配慮した。
LR3 敷地外環境	照明にLEDを採用するなど、高効率設備の導入によってCO ₂ 削減を図っている。また、駐車場や循環シャトルバスルートの新設に加え、車両出入口を二か所に設けることで、周辺地域の交通渋滞緩和に寄与している。
その他	特になし。